



彙報 : 2022年 度海港都市研究センターの活動

真下, 裕之

(Citation)

海港都市研究, 18:94-95

(Issue Date)

2023-03-27

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/0100482813>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/0100482813>



彙報

2022 年度 海港都市研究センターの活動

2022 年度の海港都市研究センター（以下、海港センターと略称）では、大学院人文学研究科における共通科目授業の開講、世界海洋文化研究所協議会（WCMCI）が主催する第 12 回国際大会への参加、一連の実地調査と研究会開催、紀要『海港都市研究』第 18 号の刊行等の諸事業を行った。

1－大学院人文学研究科共通科目の開講

今年度は前期に大学院博士課程前期課程の大学院生向けに「海港都市研究交流演習」、博士課程後期課程の大学院生向けに「海港都市研究企画交流演習」を開講した。

授業は真下教授が担当し、受講生が各自の研究についてプレゼンテーションを行い、受講生全員で討議するというスタイルをとった。授業のテーマは昨年度と同じく「港町における「翻訳」：テキスト・イメージ・人の交流・衝突・変容」とした。「翻訳」は必ずしも言語上のそれとは限らず、広く文化接触一般までも含むこととしたため、国文学や中国文学のみならず、西洋史学や芸術学、社会学などさまざまな研究分野を専門とする受講生を得た。授業では、それぞれの関心に基づきながら、異なる専門分野の院生にも理解しやすいよう、プレゼンテーションや論の立て方に工夫をしてもらい、聞き手もまた、未知の分野の報告をいかに受け止め、自分の学びとするのかについて考えてもらった。

2－WCMCI 国際シンポジウムへの参加

海港センターは例年、韓国海洋大学・台湾大学・中山大学・長崎大学等をパートナーとして持ち回りで海港都市国際会議を開催し、若手研究者に国際的な場における研究発表の機会を提供するとともに、韓国海洋大学を中心とする世界海洋文化研究所協議会 WCMCI（The World committee of Maritime Cultural Institutes）の枠組みで行われる代表者会議及び国際学術シンポジウムにも参加してきた。

2022 年度、11 月 4 日、6 日に国際シンポジウム、第 12 回世界海洋文化研究所協議会学術大会が中国の中国海洋大学をホスト校として、オンラインで行われた。テーマは「東亞海域の網路、空間與節點」(Networks, Spaces and Nodes in East Asian Seas)、6 つのセッションで 33 本の学術報告がなされ、神戸大学からは濱田麻矢（人文学研究科・教授）「留日中國女生的戀愛實踐——淺談白薇《悲劇生涯》」(Love Experiences in Taisho Japan: Baiwei's Tragic Life Revisited)、および謝格菲（人文学研究科・博士課程後期課程）「華裔作家陳舜臣筆下的西域意象」(The Imagery of the Western Regions Written by Chin Shunshin)の 2 名が研究報告を行なった。

3－実地調査と研究会

第 12 回世界海洋文化研究所協議会の代表者会議において、来年度の第 13 回学術大会を本センター主催により、神戸大学で開催することが決定された。その準備

に資するべく、「軍港都市研究」という着想のもと、世界海洋文化研究所協議会の枠組みのなかで交流を続けてきた韓国海洋大学の研究者を招聘し、2023年1月6日～9日、日本近現代史を代表する軍港都市の一つである呉、および同市と密接な関係にある広島の実地調査を実施した。あわせて「軍港都市研究」にかかる国際共同研究のキックオフとして、各自の研究発表を内容とするワークショップを1月8日呉市において実施した。

さらに、本稿執筆時点で、本年度中に開催・実施予定の研究活動は以下の通りである。

上記の「軍港都市研究」の実地調査で得られた知見を発展させるべく、本センターおよび人文学研究科教員複数を、横須賀、佐世保、長崎、横浜等の旧軍港およびそれらと密接な関係を持つ海港都市における実地調査・資料調査のために派遣する。

また3月27日、それらの実地調査・資料調査の成果を報告するとともに、外国の研究者の参加も得て、知見を総合し発展させるための国際ワークショップ「海港・軍港と人文学」をハイブリッド形式で開催する予定である。

一方、3月15日、神戸大学百年記念館六甲ホールにおいて、ドキュメンタリー映画『蟻の兵隊』の映画上映会と池谷薫監督講演会を開催する。

また3月22日、芥川賞作家、李琴峰氏を招聘し、神

戸大学文学部 B331 教室において、「言葉の枠をこえて：日本語と中国語、文語文と現代語」と題する講演会を開催する。

なお、本項に記した一連の調査と研究は、人文学研究科の人文学研究推進インスティテュートに係る戦略的事業経費（ミッション実現戦略分）の配分を得て実施したものである。

4－『海港都市研究』第18号（本号）の刊行

2023年3月、本センターの紀要『海港都市研究』第18号を刊行した。

5－まとめ

前々号（第16号）、前号（第17号）のいずれも、彙報の本項は、新型コロナウイルスのパンデミックを念頭に置いた文章だった。本号の本項は、おそらくそのシリーズの最後になるだろう。来年度以降、徐々にしかし本格的に再開するはずの実地調査や国際交流がしっかりと成果を挙げられることを期待している。パンデミックの中で「行かなくても出来る」ことを知ってしまった私たちは、「行かなければ出来ない」ことに、これまで以上に敏感であるはずだから。

（文責：真下）